

# 1. 評価結果概要表

作成日平成20年10月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101919
法人名	医療法人 近藤医院
事業所名	近藤医院グループホーム
所在地	〒851-2108 長崎県西彼杵郡時津町日並郷1325番地8 (電話) 095 - 893 - 5252

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月11日

## 【情報提供票より】(平成20年 6月 25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤	1 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 ~ 27,000 円	その他の経費	実費・水道光熱費 1日800円	
敷 金	有( 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要( 6 月 25日現在)

利用者人数	6 名	男性	3 名	女性	3 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.83 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人近藤医院 ・ くわさき歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、母体病院に併設されている。長崎市近郊に広がる住宅地の中にあり、学校や商業施設、公共施設も程近く、交通のアクセスも利便性の高い環境である。地域医療・福祉に貢献することを目的に設立され、施設2階に当グループホーム、1階にデイケアセンター、居宅介護支援センターとなっており、機能的にコンパクトなスペースの中で比較的少ない16名の定員となっている。他の二つの施設とは様々な面で協力体制をとることができ、心強い地域の拠点として期待が寄せられる。医療連携体制においては、母体医院とはドア一つつながっており、緊急時の対応、日常の健康管理において安心と信頼が得られている。今後は医師の助言のもとに重度化への対応、ターミナルケアについても学びの姿勢を持っている。また今年度は地域密着を念頭に、自治会加入やホーム行事に近隣住民を招くなど意欲的に取り組んでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを作成し、積極的に取り組むことができた。理念の見直し、改定、自治会加入による地域との連携の促進には迅速に取り組まれている。介護計画、記録に関しては試行錯誤を重ね、現在も継続中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、改善計画に基づき職員全員による自己評価に取り組むことができた。ミーティングにおいて評価項目をコピーし全員に目を通してもらい、項目毎に担当を割り振りして気づきをあげてもらうという方法をとった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容とそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度はおおむね2ヶ月に1回の開催の目標に近づけるよう、年5~6回の開催を予定している。8月「夏祭り」開催に向けて、計画準備の為に会議が活用された。地域代表として自治会長または民生委員、家族代表、行政代表として地域包括支援センター職員、ホーム管理者が会議の構成メンバーである。活動報告、利用者の近況報告のほかに意見や要望をいただいている。事業所の透明性を図りサービス向上へと繋げていくように、会議の充実に向け議題、提案の広がりを目指している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	公的機関も含めた苦情相談窓口を明示し、ホーム入り口に意見箱も設置している。1年に1度、敬老会行事の際に開かれる家族会の交流と話し合いの場において、無記名による家族アンケートを実施し、意見の聴取に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	8月には初めて「夏祭り」を実施し、案内を回覧板にておこなったところ多数の地域住民の参加があり、盛況であった。利用者、家族も喜ばれ継続した取り組みとする方向である。ホーム行事を契機として働きかけをおこなったが、今後は地域行事への参加も目指し、事業所のサービスに関する啓発も兼ねて多くの交流実現ができていくことに期待できる。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時よりの理念に加え、地域密着を考慮した文言をミーティングにて話し合い4月に改定、運営規定に附則として明記した。「当ホームのケアのあり方、役割を見つけて課題を地域へ発信し、地域で共に支える街作りに貢献していきます。」としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「目配り、気配り、心配り、言葉かけ」を特にキーワードとして、日々のケアにおける理念の実践に心がけている。事業所内の各所に掲示しているが、更に目に入りやすい掲示にするなど意識付けを十分にしていきたいとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	本年4月より自治会に加入した。具体的な活動や交流はまだ少ないが、今後は老人会も含め地域との交流へ意欲的である。「夏祭り」開催においては自治会長の協力をいただき、回覧板にて案内を出したところ、利用者家族の他に地域住民も多く来られて約80名の参加があり盛況であった。これを契機として今後継続した地域とのつきあいに取り組みたいとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価における指摘により、全員による自己評価に取り組んだ。月2回のミーティングにおいて、項目別に職員が担当するよう振り分け、確認する方法をとった。改善計画シートを作成し、向上へむけて真摯に取り組む姿勢がうかがえる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はおおむね2ヶ月に1回の目標に近づけるよう、5～6回の開催を予定している。8月には初めての「夏祭り」の計画、実施があり、会議が活用された。地域代表、行政代表、家族代表、管理者により、会議メンバーは構成され活動報告、行事報告の他、頂いた意見により事業所の透明性を図り、サービス向上へ繋がる活用を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市、町の行政担当者との連携を積極的に図っている。ホームからの報告、相談(10月入居予定の方に関する相談、助言を得た)或いは情報収集をおこない、「報、連、相」の取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に(2ヶ月に1回)ホームだよりを発行し、写真と共に行事の折や日常の利用者の様子を伝えている。家族の訪問時には、口頭にて近況報告がなされているが、遠方におられる家族へは電話や請求書など郵送の際に管理者が一言添えるなどして近況報告をしている。緊急時、必要時にはどの限りにおいても必ず電話にて報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的機関も含めた苦情相談窓口を明示し、ホーム入り口には意見箱を設置している。1年に1度、行事の折に開かれる家族会の交流の機会に、無記名による家族アンケートを実施し意見の聴取を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より職員の異動は少なく、法人内の定期異動はない。馴染みの職員の異動によって利用者にダメージを与えることに十分に配慮し、利用者、家族への説明、新任職員の紹介を管理者が行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外部の研修計画に沿って、ターミナルケアに関する研修を始め、職員個々のレベルアップのためにも出来る限り受講の機会があるよう勤めている。参加職員による研修報告書の閲覧、ミーティングでの報告などの伝達講習を通じ、全員の知識の共有化に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	10事業所による時津・長与地区認知症連絡協議会に加入、会の役職も担い代表者会議や勉強会など積極的に参加している。管理者が職員を伴っての他事業所の訪問、見学も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に関して、他事業所との情報提供、連携などもあるが、いずれの場合もホームのサービスについての説明や見学を実施し、本人と家族に納得して利用していただけるようにしている。利用開始時には管理者が自宅訪問し、本人、家族への理解を深め、安心していただけるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は明るく楽しい雰囲気作りに心がけ、会話の中で笑顔をもって応じられるよう日々努めている。思わぬ気づきを利用者から教えられたりする機会もあり、話好きな利用者とは傾聴の姿勢をもって互いに信頼と尊敬の念をもつことができるよう努力している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を用いて、利用者に対して職員を担当制とし、思いや意向が汲み取れるよう心がけている。家族とも情報交換をおこない本人の状態を理解できるよう「その人像」の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個別性の高い介護計画を目指し、担当者会議における課題抽出と本人、家族の意向を取り入れることに努めている。月2回のミーティングにおいて、医師も参加し話し合いながら計画検討をしている。例えば家族よりリハビリを付けて欲しいとの要望に、医療面からの意見をあおぎ計画に反映させた。</p>		<p>本人、家族の意向について、話し合いや要望の他に、特に本人からの聞き取りが困難な場合の日常の様々な場面での気づきの反映に今後も期待したい。計画書、記録物など書類の記述は、ボールペンなどの使用、パソコン入力が望ましい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しの期間は3ヶ月としているが、変化が見られる場合は随時の対応としている。日常での利用者本人の思い、意向の聞き取り、気づきをより計画に反映することができるよう、引き続き介護記録のあり方を工夫、検討していくようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出、外泊は柔軟な対応がなされている。調査当日も家族のもとへ外泊されていた利用者が笑顔で帰ってこられていた。本人、家族の意向を取り入れ医師の指導のもと、階下のデイケアでのリハビリや、併設医院での呼吸リハビリも受けられる。通院支援も行い、歯科は状況に応じ訪問診療も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医院が主治医であるため、受診、緊急時の迅速な対応において安心を得られている。耳鼻科、眼科など母体医院の診療科目にない医院の受診に関しては、それぞれのかかりつけへの通院支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期への方針を明示し、意思確認を本人、家族と話し合い同意をいただいている。現在までに当ホームでの看取りの事例はないが、ミーティングにおいて医師からもターミナルケアについての準備について話をされることもあり、7月に研修にて学びの機会を持った。今後も、ケアに関して研鑽を積むべく積極的に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類などは事務室にてきちんと管理されており、個人情報保護に関しても理解を深めるべくこれから研修を予定している。理念に沿って、心配り、言葉かけには注意を払いケアにあたっているが、業務に追われる中でやや配慮に欠けてしまう場面も見受けられた。		ことにまだ入居されて間もない利用者とは職員は関係構築の途上で努力しており、何より本人が馴染まれておられない部分もある。共に支えあい暮らししていく中で、尊敬の気持ちを忘れず信頼関係を得られるよう、特に排泄、着替え時の支援の声掛け、対応への配慮と工夫が望ましい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあり、午前中のラジオ体操などを行っているが、その日の利用者の気分で自由に参加いただいている。体調面のこともあり日中は居室ですごされる利用者も多いが、外出されたい場合や職員との会話をされたい時は、努めて応じられるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	改善計画にあげ、職員が1名検食として共に同じ食事を同じ食卓でとるようにした。おやつや行事食の際の家事参加も、7月の七夕の巻き寿司作りには可能な利用者には参加いただき、共に作り食事を楽しむことができた。ただ、日常の食事において職員一人では、会話もまだ乏しく印象として昨年度と変化は見受けられなかった。		職員の休憩時間の確保、同じ食事を摂ることが難しい状況もあるが、食事は大切なコミュニケーションの場であり、利用者の一日のうちでの楽しみであるからこそ会話を引き出せ、気づきも多い機会と捉えたい。出来れば休憩時間を工夫して、もう1名職員が食卓を囲み食後のしばしの会話が生まれたいか、食事の間の環境(流している音楽の好み、音量など)においても再考、検討されることに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、入浴していただいている。体調等で入浴が困難な場合は清拭にて清潔保持に努めている。浴室がやや手狭であり、併設医院の浴室で特浴の対応もなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	風船バレーや廊下でのボーリング、囲碁、百人一首など興味のあられる方は楽しめることもあった。読書に意欲があられ書籍を求められたので、職員が持ち寄ったり、図書館で借りてきて読み聞かせの支援をおこなっている。くず入れ用の折り箱作成、洗濯物たたみ、室内の観葉植物の手入れなど出来る範囲で役割を担っていただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出傾向のあられる利用者には、できるかぎり本人の希望に沿って気分が落ち着かれるまで散歩などの支援に努めている。日常で食べたい副菜、嗜好品を買われるよう、近くのスーパーへ買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの入り口となる2階ドアは施錠することなく開放している。廊下突き当たりの非常階段に続くドアや併設医院、厨房へと続くドアは安全への配慮のため、一部施錠している。外へ出られた時は職員の見守りの他、階下の施設、併設医院、職員の見守りもあり、近くの交番にも協力を依頼し地域との連携もなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、4月には夜間想定訓練を行った。今後も、地域との連携を具体的に深めることと、非常用備蓄は最低限何が必要かを考慮し経営者とのミーティングにおいて取り組みの検討を継続したいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は、バイタル表に記録、管理している。食事アセスメントシートを作成し、嗜好、疾病、アレルギー等の情報を把握するよう努めている。形態食(きざみ、とろみ)に関しては、主治医の指導のもとに対応している。食事は併設医院より提供されているので、カロリー、塩分計算はなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	医院に併設の建物で、階下にデイサービス施設等もあり、広さはコンパクトとなっているが見守りが届きやすい機能的な空間である。食堂兼居間は表に面した角部屋で、窓からの眺めもよく見渡せる明るい空間である。出窓のスペースに植物が置かれてあり、世話をする利用者の姿も見られた。廊下には二人がけのソファもおかれ、独り居、或いは語らいの空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスは備え付けとなっている。仏壇、鏡台、テレビ、冷蔵庫等の持ち込みの家具、調度品は多く、希望によって畳を敷いたり、その人らしい部屋作りへの支援がなされている。		